

中学校における「総合的な学習の時間の授業」についての研究
～小規模校における指導のあり方Ⅲ・交流学习を中心として～

碓ヶ関村立碓ヶ関中学校 中村博文

要 約

本報告は、総合的な学習の中の一単位である自由課題設定学習の確立へ向けての実践記録であり、本センター報告書8号及び9号の続報である。特に過去2年間の実践で明らかになった課題設定学習の問題点の改変を行いながら、基盤づくりの学習として「交流」をキーワードとして、小規模校における総合的な学習の時間の指導のあり方を模索した。

地域交流学习と国際交流学习の実践をふまえて、特別活動と総合的な学習の時間の「体験活動」について整理・検討した。あわせて、交流活動を総合的な学習の時間の学習として実践するためのねらいや学習の進め方について考えを提示してみた。

[キーワード] 中学校, 総合的な学習, 小規模校, 交流, 指導法

I はじめに

2002年から新学習指導要領が全面実施される。特に新設される「総合的な学習」の時間については、単元の開発や学習過程、指導法等の確立が早急に迫られている。

勤務校である碓ヶ関中学校では、平成11年度から「総合的な学習」の時間の単元の開発に取り組んでいる。これまで行ってきた自由課題設定学習の成果と課題をもとに、その基盤づくりの学習として取り組んだ「交流学习」について以下に報告する。

II 研究のねらい

本研究は、碓ヶ関村立碓ヶ関中学校での総合的な学習の時間の指導法を確立することを通して、特に小規模校における指導法を模索することをねらいとする。

実践研究をすることによって、学習過程での問題点が明らかにされ、問題提起できると考えられる。

III 研究方法

- 1 新学習指導要領の「総合的な学習」の時間の学習計画を実践研究を進めながら模索する。
- 2 1の実践研究を通して、問題を提起し、考察する。

IV 研究対象

1 学校名, 学年

碓ヶ関村立碓ヶ関中学校 平成13年度第1学年 (男子12名, 女子10名)
平成13年度第2学年 (男子22名, 女子16名)
平成13年度第3学年 (男子18名, 女子19名)

2 指導者

碓ヶ関村立碓ヶ関中学校 平成13年度全職員 (12名)

V 研究内容

1 生徒の実態と本研究に至る経緯

碓ヶ関中学校は、ここ数年生徒数百名前後で推移している小規模校である。今年度は、

各学年1クラスずつの編成となった。生徒は、純朴で素直な生徒が多い反面、積極性に欠けることや多様な事柄に価値を見いだせないことなどが学校課題の1つとして挙げられる。

前述したが、平成11年、これまでの選択学習を拡充させ、「総合的な学習」の時間をスタートさせることになった。そこで、小規模校の利点を生かした個に応じた学習の展開ができる単元を模索した結果、「総合的な学習」の時間として自由課題設定学習の単元を開発することができた。そして、昨年度までに課題設定学習（未来学習と呼称）、すなわち生徒一人一人が自由に課題を設定し、計画を立案し、実行し、考察を加える学習の実践を重ねた。結果、指導方法や実際の授業の進め方は、ほぼ本校独自のスタイルが完成されつつある。また、1・2年生で履修する「総合的な学習」の時間をその基盤づくりの段階ととらえ、学校全体の「総合的な学習」の時間（関中タイムと呼称）を計画・整備することができた。

しかしながら、これまでの実践から、改善を要すべき点として、次の2点が考察された。

- ①課題設定学習の課題づくりの問題
- ②課題設定学習実施までの基盤づくりの学習のあり方の問題

①に関する問題は設定課題の質の問題である。過去三年間の課題は次の表1～表3の通りである。

表1 年度別生徒最終課題一覧(1)

平成13年度生徒課題一覧
車の内部構造について
車の内部構造について
車の内部構造について
曲にあったビデオをつくることで創造力を高める
映画の秘密を探ろう
映画の秘密を探ろう
曲にあったビデオをつくることで創造力を高める
バイクの構造を知ろう
カップラーメンを調査する
ヒューマノイドロボットのメカニズムについて
曲にあったビデオをつくることで創造力を高める
バイクの構造を知ろう
村内の温泉の水質について調べる
いろいろな音楽を知ろう
車の内部構造について
曲にあったビデオをつくることで創造力を高める
カップラーメンの性質について
すばらしいウエディングケーキを作ろう
マンガの描き方を知り、人気のあるマンガの理由を調べて、実際におもしろいマンガをつくる
イラストとマンガの違いを知り、よりよいイラスト表現をめざす
服をつくろう
すばらしいウエディングケーキを作ろう
映画の秘密を探ろう
無理せず効果的なダイエットの食事と運動
多くの人に本を読んでもらうためには～本の宣伝方法～
ホームページで平和を訴えよう
服をつくろう
To be a good cake maker.
すばらしいウエディングケーキを作ろう
脳を活発にはたらかせる食事づくり
無理せず効果的なダイエットの食事と運動
服をつくろう
脳を活発にはたらかせる食事づくり
脳を活発にはたらかせる食事づくり
自転車にのろう

(生徒数37名)

表2 年度別生徒最終課題一覧(2)

平成12年度生徒課題一覧
バイクについて
バイクについて
スカイラインはなぜ速いのか
バンドでの自分の役割を研究し、ギターソロ作曲しよう
魚の生き方を調べる
魚について
バイクについて
音楽について
映画について
映画について
オリジナル曲をつくろう
映画について
ギターについて
映画について
ドラムについて(しくみ、テクニック)
車について
魚の生き方(補食について)
川の魚について、釣り
映画について
占いと恋愛について
絵について
写真について
ホルンについて
服の製作
クラリネットについて
映画について
音楽について
カメラマンになろう
お菓子のルーツを探れ
お菓子について調べよう
お菓子の歴史について
おいしいお菓子について
写真を撮るとき、なぜポーズをとるのか
音楽のランキングについて
お菓子の歴史とその作り方
占いと恋愛について
写真について

(生徒数37名)

表3 年度別生徒最終課題一覧(3)

平成11年度生徒課題一覧	碓ヶ関の昔の事件, 心霊スポットについて
花火のいろいろについて調べる	カップラーメンの歴史
変化球の投げ方と試合での効果(フォークをマスターする)	変化球の投げ方と試合での効果(シンカーをマスターする)
車の種類や形について(車の構造やメーカーの数)	変化球の投げ方と試合での効果(カーブをマスターする)
自然の野草について知る	ラーメンの歴史
釣りについて調べよう	碓ヶ関の温泉について
芸能界の裏の裏を知ろう	自然の野草について調べる
釣りについて調べよう	芸能界の裏の裏を知ろう
花火のいろいろについて調べる	芸能界の裏の裏を知ろう
コンピュータについて(コンピュータの種類や使われている場所)	カップラーメンの歴史
釣りについて1999	自然の野草について調べる
ロボット(機械のしくみ)	競馬について(歴代G1勝ち馬はなぜ勝ったか。青森の競走馬)
日本の麺類について調べよう	郵便局について(郵便物の安全性)
世界のエスニック料理について調べよう	歌ができるまで(歌をつくる)
碓ヶ関の昔の事件, 心霊スポットについて	紅茶について調べる
日本の麺類について調べよう	世界のエスニック料理について調べよう
民族衣装について調べる	紅茶について調べる
郵便局について(郵便物の安全性)	碓ヶ関の昔の事件, 心霊スポットについて
日本の麺類について調べよう	歌ができるまで(歌をつくる)
クラリネットの研究	碓ヶ関の昔の事件, 心霊スポットについて
クラリネットの研究	世界で愛されているチョコレート
碓ヶ関の昔の事件, 心霊スポットについて	世界で愛されているチョコレート

(生徒数46名)

今年度の三年生は、過去の先輩たちの取り組みを発表会等で見えてきており、幾分、課題の内容に深まりあるテーマが見られるようになってきた。しかし、年度ごとに、課題の内容を比較検討してみても、男子は自動車や機械、映画など、女子はお菓子づくりや音楽などの領域に取り組む生徒が毎年多い。そして、実際のところ、これら趣味的な要素を持つ課題ほど、学習教材の主体とすることが難しく、揶揄もすると楽しさだけで何の成果もないまま学習が終わってしまう場合も少なくないのである。

課題設定学習開始当初は、新学習指導要領に「自ら課題をみつけ、自ら学び・・・」と示されていることから、生徒本人が課題設定し、解決していくよう努力させることが大切であると指導者間で共通理解を図った。しかし、生徒本人がいかに気に入ってつくった課題であったとしても、設定した課題の質があまりにも幼稚だったり、あるいはすぐ終わってしまう簡単なものだったり、調べ学習中心で内容の理解だけを主とする学習は、継続していかない傾向が今年の実践で顕著になった。

次頁の資料1表4の考察から、昨年度と比較し、今年度の自己評価の結果を分析するとすべての項目で下降傾向を示してしまった。原因をいくつか考察してみると、まず、日常生活において計画をたてるのが苦手な生徒が多く見られることが考えられる。このことが評価項目(3)と(4)の自己評価の低さに如実に現れている。また、当初20時間で計画していたが、学校事情により今年度は15時間の実施となり、生徒の中には、納得のいくものをと計画しているうちに学習が終了してしまった者もいる。さらに、配置教師の人数不足もあり、生徒の計画通りの支援ができなかったことも事実あった。今年度の実践から、あらためて課題設定学習の抱える問題を痛感した。

このように取り組みから3年目となるが、課題設定学習を含め、「総合的な学習」の時間の授業全体の見直しをはかる必要にせまられている。何よりも「自ら課題をみつける」には、自分で設定した課題そのものが、果たして学習に値するものなのか、学習して満足や成就感を味わえるかなど課題を吟味する力が必要となる。また、自分自身の計画を推進していく力も必要であろう。このような考えらから、改善点②の課題設定学習実施までの基盤づくりの学習のあり方を再検討し、スタートさせた。

資料1 課題設定学習の今年度と昨年度の質問項目別集計結果と分析

次の評価は未来学習終了時に行い、評価項目カードは昨年度と同様のものを用いた。評価は良い傾向ア→悪い傾向エの4段階で行った。評価項目は以下の通りである。

【評価項目】

- (1) 課題について
 ア, 設定した課題は, 自分の興味関心によく合っていた。
 イ, 設定した課題は, 自分の興味関心にだいたい合っていた。
 ウ, 設定した課題は, 自分の興味関心にあまり合っていなかった。
 エ, 設定した課題は, 自分の興味関心にまったく合っていなかった。
- (2) 意欲について
 ア, 意欲をもって熱心に取り組んだ。 イ, だいたい意欲的に取り組んだ。
 ウ, あまり意欲的に取り組めなかった。 エ, 全然だめだった。
- (3) 学習計画について
 ア, たいへんよくできた。 イ, だいたいよくできた。
 ウ, あまりよくできなかった。 エ, 全然できなかった。
- (4) 研究の進み具合について
 ア, 非常に順調だった。 イ, だいたい順調だった。
 ウ, あまり進まなかった。 エ, 全然進まなかった。
- (5) まとめ(レポートや実技など)
 ア, よくできた。 イ, だいたいよくできた。
 ウ, あまりよくできなかった。 エ, 全然できなかった。

表4は上記の評価を質問項目別に状況をまとめ、昨年度と比較しまとめたものである。

表4 平成13年度未来学習自己評価分析結果

	※1 課題設定		※2 意欲		※3 学習計画	
	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度
ア	42%(15)	86%(32)	44%(16)	62%(23)	22%(8)	40%(15)
イ	44%(16)	14%(5)	42%(15)	35%(13)	50%(18)	46%(17)
ウ	11%(4)	0%(0)	14%(5)	3%(1)	22%(8)	14%(5)
エ	3%(1)	0%(0)	0%(0)	0%(0)	6%(2)	0%(0)

	※4 進行状況		※5 内容整理	
	今年度	昨年度	今年度	昨年度
ア	17%(6)	75%(28)	33%(12)	78%(29)
イ	33%(12)	22%(8)	28%(10)	22%(8)
ウ	47%(17)	3%(1)	33%(12)	0%(0)
エ	3%(1)	0%(0)	6%(2)	0%(0)

今年度 36人
 昨年度 37人で実施

・()内は人数

【有意差の判定】

今年度と昨年度の項目別回答状況を χ^2 検定の2K分割で検定した結果は次のようになる。

(自由度 = 3, 危険率 = 5%水準, 分布表の値 = 7.81476, 二つの割合は同質ではない。)

- ※1は χ 自乗の値 = 38.1776729 有意差あり
 ※2は χ 自乗の値 = 10.8106145 有意差あり
 ※3は χ 自乗の値 = 13.1702509 有意差あり
 ※4は χ 自乗の値 = 80.4852174 有意差あり
 ※5は χ 自乗の値 = 57.9632432 有意差あり

2 総合的な学習のねらいと内容

今年度の碓ヶ関中学校の総合的な学習の時間のねらいは次のとおりである。

生徒の興味・関心に基づき、横断的・総合的な学習の中で

- ↓
- | |
|---|
| ①よりよく問題を解決する能力を育てる。
②学び方やものの考え方を身につける。
③主体的、創造的に取り組む態度を育てる。
④自己の生き方について自覚を深める。 |
|---|

※3年間の総合的な学習の時間
(関中タイム)の中で段階的につけたい力

碓ヶ関中学校では、総合的な学習の時間を「関中タイム」と呼称し、各学年ごとに段階的に取り組んでいる。課題設定学習(未来学習)は、3年生の最終で学習する総合的な学習となり、1, 2年及び3年前期の学習はこの課題設定学習に取り組んでいく上で、必要な知識や技能を醸成するための学習と考え設定している。表5に関中タイムの学年別及び月別配列を示し、今年度実施した各講座の概要を述べる。今年度の実施予定時数は1年70時間, 2, 3年40時間である。(予備時間含む)

なお, ※印の部分が今年度新たに改変を加えた単元である。

表5 平成13年度関中タイム学年別及び月別配列

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年	お祭	お祭	お祭	お祭			未来学習					
2年	お祭	お祭	お祭	お祭			※国際交流学習				修学旅行学習	
1年	お祭	お祭	お祭	お祭			※地域交流学習					
	基礎講座											

講座の概要

【基礎講座】 1学年共通。各教科で身につけた学習の技能を生かし、学び方やものの考えを身につける学習。総合学習にむけての学び方やものの考え方について学習する。(計30時間)

基礎Ⅰ・・・コミュニケーション(6時間)

簡単な手話を学習することによって、言葉にたよらなくとも伝達する方法があることを体感させ、相手のことをよく知ろうとする気持ちを育てることをねらいとする。

基礎Ⅱ・・・取材・インタビュー(6時間)

取材の仕方・インタビューの仕方を身につけさせ、コミュニケーションをする技術を高めることをねらいとする。

基礎Ⅲ・・・機器指導(8時間)

カメラ、実物投影機、TPの書き方、ビデオ操作、OHPなどの機器の操作法を学び情報リテラシーを高めることをねらいとする。

基礎Ⅳ・・・プレゼンテーション(8時間)

課題の説明の仕方を機器を使いながら学ぶ。プレゼンテーション能力を高めることをねらいとする。

【祭学習】 全学年5コースから選択。身につけた学び方を利用してさらに主体的、創造的に取り組む態度を育てる学習。文化祭で発表の場を設けている。(計20時間)

表現Ⅰ・・・演劇の制作過程を調べ、役者、舞台スタッフに分かれ必要な技能を習得し、劇を上演する。

表現Ⅱ・・・関所太鼓の歴史を調べ、合奏に必要な技能を習得し披露する。

創造Ⅰ・・・ねぶたの製作過程、歴史等を調べ、ねぶたを製作し、文化祭で運行する。

創造Ⅱ・・・文化祭のテーマとなるパネルを製作する。

創造Ⅲ・・・メキシコの伝統工芸であるモラを紹介し、作品を製作する。

【修学旅行学習】3年実施(12時間)

①企業訪問や職場体験を通し自己の生き方について自覚を深める活動。

②海外体験学習の経験を生かし、日本の文化を見つめ直す活動。

※【国際交流学習】2年実施(12時間)

国際交流を通して異文化にふれ、自己の生き方について自覚を深める活動。

※【地域交流学習】1年実施(12時間)

地域交流を通してふるさとの文化を見つめ直し、自己の生き方について自覚を深める活動。

【未来学習】

3学年実施。自ら課題を見つけ、計画を立案し、解決方法を探る活動を通しよりよく問題を解決する能力を育てる活動。3年間の身につけた力を統合して、「未来への提言」といった視点で自由課題に小グループで取り組む。(23時間)

3 交流学習

(1)交流学習設定の理由

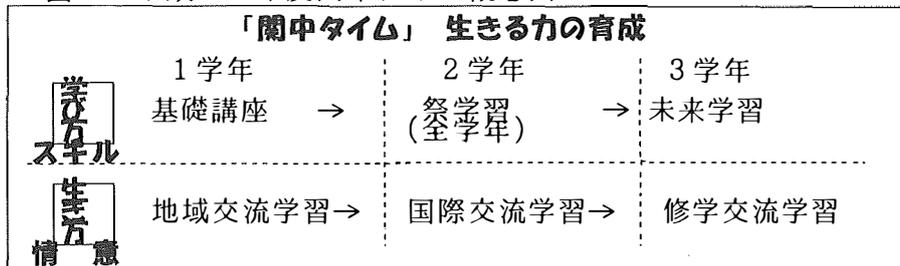
2の表5及び講座の概要で示したとおり、今年度は一部カリキュラムを変更した。

昨年までは、【社会見学学習】を実施し、主として職場見学を行っていた。しかし、【修学旅行学習】との系統性が漠然としていたりことや単発の調べ学習・発表学習で終了してしまいがちであった。そこで、学年が進んでも経験を生かしながら発展的に学習できる単元を模索した結果、改変案としてでてきたのが人とのふれあいを軸とする「交流活動」である。この「交流学習」は、小規模校の弊害である、生徒のせまい人間関係からなかなかぬけだせないという実態や中学生海外派遣事業【(2)の国際交流学習の実際参照】が実施される現状に照らし合わせても意義のある学習と考えられた。

周知の通り新学習指導要領に示されている「総合的な学習」の時間のねらいは、問題解決能力の育成、学習過程における学習スキルの育成、人間としての生き方を培うことである。そして、そのねらいは主として「学び方にかかわるもの」と「生き方にかかわるもの」に大別できる。これまで本校の「総合的な学習」の取り組みは、どちらかと言えば、情報リテラシーや機器操作、プレゼンテーションなどのスキルの習得が先行していた。したが

って今回の交流学习の単元の開発は、2の総合的な学習のねらいの【③主体的、創造的に取り組む態度を育てる】や【④自己の生き方について自覚を深める】ことに重点をあてたものであり、特に情意面での生きる力の育成をねらいとするものである。図1に今年度の関中タイムの概念図を示す。

図1 平成13年度関中タイム概念図



(2) 地域交流学习

各活動ごとの学習経過は表6の通りである。なお、表中の領域「社会見学」とあるのは、年度始めに本単元の細案が決定していなかったため、時数のカウント上使用した名称のである。実際の活動は地域交流学习の事前・事後指導である。

表6 学習経過

日 程	領 域	時数	活 動 内 容
7月18日(水)	基礎講座⑭⑮⑯⑰	4	地域交流学习第1回目 ハッピーハウス訪問・高齢者の方々との交流活動
9月19日(水)	社会見学①②	2	ねらい・実施方法の説明 班編成と役割分担
10月 4日(木)	社会見学③④	4	歴史探訪したい場所の検討と決定
11日(木)	社会見学⑤	1	取材活動計画・グループ行動計画
18日(木)	社会見学⑥	1	仕事の内容の確認
19日(金)	1日行事	1日	地域交流学习第2回目 弘前市内散策・インタビュー・取材・観光体験
22日(月)	社会見学⑦⑧	2	発表資料づくり
29日(月)	社会見学⑪⑫	2	反省と評価発表会の指導
30日(火)	社会見学報告会	2	今後の学習への指導

【第1回 ハッピーハウス訪問 (資料2・資料6)】

「ちょっと前の碓ヶ関を知ろう～高齢者の方への取材から～」のテーマを設定し、1回目の地域交流学习に取り組んだ。これは、基礎講座IIで取材・インタビューの学習のまとめとして、村の社会福祉協議会(通称ハッピーハウス)を訪問し、高齢者への取材を通して交流を図ったものである。

学習の実践にあたり、事前に、社会科で碓ヶ関村の地形・気候の特色、基幹産業など取り上げ学習し、また、学級活動で高齢者の方と接する場合の配慮を指導し、意識づけさせた。

訪問では、最初どうやってコミュニケーションをとっていったら良いか戸惑う生徒もいた。しかし、時間が経つにつれ親近感がお互いに増してきたようで、会話もはずんできた。

ようであった。取材活動には、総じて積極的に取り組み、その後のゲームや昼食会でも精一杯、気配りをして対応する活動がみてとれた。

【第2回弘前市内散策及び取材・インタビュー活動（資料3・4・5・12）】

「インタビュー活動を通して、コミュニケーションする力を高める」ことなどを目的として2回目に地域交流学习を行った。事前の学習6時間、事後のまとめ6時間の時数をあてた。事前学習では、実施後の発表会のことにもふまえ、質問項目を厳選したり、再度マナーの指導などを行った。当日は、弘前城内五カ所に分かれて行った。1回目の経験もあって自信を持って取り組んでいたようである。マナーや声のかけ方など、初対面の人に対しての接し方によく考えた行動がみられた。学級全員がインタビューをすることに成功し、約2時間で1人平均3.5人の方のお話を聞くことができた。その中で一番多くインタビューした生徒は8人であった。事後のまとめの活動では、取材結果をもとに、統計資料を作成させ、発表会では、視覚的に訴えるプレゼンテーションを意識させながら発表に臨ませた。

(3) 国際交流学习

碓ヶ関村では、平成11年に「中学生海外派遣事業に係わる条例」を制定した。趣旨は村内の中学生の希望者全員を海外に派遣し、見聞を広め、見識を高めるといったものである。現中学校3年生が、昨年第1陣として、37名中35名参加している。昨年度は村主体の事業ということで、学校の週休日の何回か役場で説明がなされ、思ったような研修計画もないままの参加になった。

今年度は、このような昨年度の反省を生かし、国際交流学习の時間の中で、事前の学習をして出発することが4月段階で決定していた。時期は11月、行き先はオーストラリアである。事前指導と事後指導の計画も組まれ、英語や社会の教科の授業などでは海外派遣へ向けての授業も行われ、実施に備えていた。

そんなおり、9月11日米国同時テロ事件が起き、10月安全面の配慮から、村は今年度の事業の延期を決めた。このような経緯から、この報告は代替案として年度途中で変更し、実践されたものである

各活動ごとの学習経過は表7～表11の通りである。なお、表中の領域で「国際理解」、前述したが、「社会見学」とあるのは、年度始めの計画による名称であり、実際の内容と合致しないものもある。また、学習⑤の国際交流学习の事前準備は、実施時期が不確定だったことや授業時数が足りないことから放課後等の時間を利用した。

【活動ごとの学習経過】

表7 学習①－英語による日常会話

日 程	領 域	時数	活 動 内 容
8月5日(水)	国際理解①	2	日常会話の練習(英語)
9月19日(水)	国際理解②		

表8 学習②－海外派遣にむけての地域交流学习

日 程	領 域	時数	活 動 内 容
10月4日(木)	国際理解③	1	場所の検討と決定
11日(木)	国際理解④	1	取材活動計画・グループ行動計画
18日(木)	国際理解⑤	1	仕事の内容の確認
19日(金)	1日行事	1日	隣接地域を調べよう 南・北津軽郡内町村でのインタビュー・取材
22日(月)	国際理解⑥⑦	2	発表資料づくり

29日(月)	国際理解⑧⑨	2	反省と評価発表会の指導
30日(火)	社会見学報告会	2	今後の学習への指導

表9 学習③－講演

日 程	領 域	時数	活 動 内 容
20日(土)	学級活動	1	カーペンター教授の講演会 (対象全校生徒・地域住民)

表10 学習④－世界情勢調べ・ディベート学習

日 程	領 域	時数	活 動 内 容
11月1日(木)	国際理解⑩	1	「今世界で起きていること」 インターネットでの調べ学習 グループでのまとめ
2日(金)	国際理解⑪	1	
7日(水)	国際理解⑫・社会科	2	
9日(金)	社会科	1	
16日(金)	国語・社会科	2	ディベート学習

表11 学習⑤－弘前大学留学生との交流会

日 程	領 域	時数	活 動 内 容
11月16日(金)	学級活動	2	第1回国際交流学習
12月18日(火)	学級活動	4	第2回国際交流学習

学習②～学習⑥について以下に述べる。

【学習②－海外派遣にむけての地域交流学習(表8)】

この学習は、海外での土地勘のない場所で行動することを想定したものである。ねらいを「各町村で働く人にふれ、それぞれの生き方や思いを体感するしよう。またで協力し計画を達成するとともに、TPOに応じた言動ができるようになるろう。」とした。

具体的には、南津軽郡や北津軽郡の町村で取材し、訪問した町村をPRすることとした。計画段階から生徒たちに任せただけで、必要な係を自分たちで考えたり、訪問先へ電話で連絡をとったり各班とも意欲的に準備が進められた。実際、帰校後には「質問する態度やあいさつがすばらしかった。」と担当者からわざわざ激励の電話をいただいた班もあった。

【学習③－講演(表9・資料7)】

弘前大学人文学部カーペンター・ピクチャー・リー教授を招き、「交際交流って楽しい」と題して、講演をしていただいた。初めは、めったに接点のない外国人の方のお話ということで、生徒たちも緊張していたが、後半は先生のジョークを交えた話術にすっかり夢中になってしまった様子であった。最後には、生徒たちからの質問もとびだし、充実した時間をもつことができた。

【学習④－世界情勢調べ・ディベート学習(表8・資料8・9・10・13・14)】

学習④と学習⑤は、今年度の海外派遣が延期決定されてから、計画・実施した。

学習④では、米国同時テロ事件以降の世界情勢を調べ、調べたことをふまえたディベート学習を行うこととした。

事件以後、連日マスコミで事件の詳細やその後の各国の対応などが報道されていた。今回の事件は、生徒たちに直接、海外派遣が延期という影響がでたことから、興味関心が一段と高まっている。それならばということで「今、世界で起きていること～私たちの海外派遣が延期になったわけ」というテーマを設定して、調べ学習を行わせた。学習の際は、世界の情勢が複雑で、学習が困難と予想されたため、あらかじめキーワードを示した。

訪問先での質問事項
質問に答えてくれた方

1. 昔の生活と今の生活とはどこが違いますか。	昔は、いろいろとたいへんだった。今はとても楽である。
2. 昔の楽しみ、今の楽しみ。	花見など、出かけた時、ハッピードに行くのが楽しみ。
3. 子供の時代に楽しかった事。	花火や、流し風船、たまごかし(お祭り)。
4. 戦争で一番いやだった事は、	人が兵隊として取り去られた事。
5. 戦争中に食べ物がないとどうしたか、ほかの何がなかったか。	秋田へ買い物に行き、父が食べ物を取ってくるのをみた。
6. この温泉が好きな理由。	緑ヶ間の温泉。

評価項目

項目	評 価
1. 地域交流の学習に、積極的に参加できた。	A B C D
2. 異年齢など、余裕を持って行動できた。	A B C D
3. 体験先で、礼儀正しくできた。	A B C D
4. 体験先で自分の役割をまっちゃんとできた。	A B C D
5. 今回の地域交流は、自分にとってプラスになった。	A B C D

<感想及び反省>
 話が楽しかった。少し苦しい社会を勉強かにな、た時もあった。風船ハッピーが楽しかった。ボウリングは、楽しかったが、失敗し終わった。それが、楽しかった。

資料2 第1回地域交流質問事項及び評価

評価項目

項目	評 価
1. 社会見学に、積極的に参加できた。	A B C D
2. 異年齢など、余裕を持って行動できた。	A B C D
3. 体験先で、礼儀正しくできた。	A B C D
4. 体験先で自分の仕事をまっちゃんとできた。	A B C D
5. 今回の社会見学は、自分にとってプラスになった。	A B C D

<感想及び反省>
 中体本会について初めての、社会見習いでした。自分自身に、やるべき事、一度は体験したいと思ってきましたので、おもしろいと思います。それに言葉が、かみもよかったです。この社会見習いだと思います。

資料3 第2回地域交流評価

資料4 第1学年社会見学実施要項

1. ねらい
 - ① 地域文化による歴史学習を通して、互いに協力し合う態度を育てる。
 - ② インタビュー活動を通して、コミュニケーションする力を高める。
 - ③ 体験先地を通して、地域の伝統習俗により、郷土愛を促める。
2. 目標
 - ① 仕事や役割を分担する中で、協力し合い支え合いを促す。
 - ② 安全に留意し、公共設備を守って積極的に行動しよう。
 - ③ 郷土を自ら探究し、生活や学習に役立てよう。
3. 期 日 平成13年10月19日(金)
4. 場 所 弘前市内 弘前歴史館 (あらかじめ通入した歴史2か所を計画通り回る調査活動) 午後2時 インタビュー活動 (弘前城周辺において、取材活動を行い、郷土課程について考える) 体験観光学習 (おふたりにて、課程用紙制作、金魚メダカ製作、漆絵、フナコ、こぎん刺し、私物こけし、こまから選別)
5. 参加者 第1学年生徒 22名(男子12名、女子10名)
6. 引率者 校長 藤田、中村 14名、工藤 焼子(計15名)
7. 交通機関 スクールバス、市内移動はグループ計画、選択
6. 日 時 6:00 中学校集合
 6:05 朝の会(出勤確認及び服装確認)
 8:10 中学校発
 9:30 弘前歴史館
 13:00 資料を各自取って弘前城へ移動
 取材活動
 14:50 体験観光学習
 16:00 弘前城出発
 17:00 中学校裏、解散
9. 延保費 4~5名 5所編成
10. 注 意
 - ・体験観光先代表(各自負担)
 - ・昼食代(各自負担)

11. 指導内容と生徒の活動

- (1) 事前指導(6時間)
 - ① 社会見学の意義と目的の徹底
 - ② 地域文化と役割分担
 - ③ 歴史探訪したい場所の検討と決定
 - ④ 取材活動計画
 - ⑤ グループ行動計画
 - ⑥ 仕事の内容の確保
- (2) 現地指導
 - ① 目標設定
 - ② グループ行動と体験学習の場
 - (3) 事後指導(6時間)
 - ① 社会見学体験記
 - ② 反省と評価
 - ③ 発表資料作成
 - ④ 発表会
 - ⑤ 今後の学習への指導

12. 指導計画表

日 時	種 別	活 動 事 項	活 動 内 容
9月18日	2時	全体指導	見聞録と役割分担の説明
9月18日	2時	班活動	歴史探訪したい場所の検討と決定
9月18日	2時	班活動	グループ行動計画
10月10日	8時	発表資料づくり	発表会準備への指導

13. 服装・持ち物・持参金額など

- (1) 履 装 制服
- (2) 持ち物 筆記用具、身分証明書、写真など
- (3) お 金 3千円以内(市内移動代、昼食代、体験観光費用代)

14. 注意事項

- ① グループ内で協力し、交通安全に気をつける。
- ② 歴史探訪、取材活動の際は礼儀正しく振る舞う。
- ③ 真へ歩き、飲み歩きはしない。
- ④ 時間を守る。

資料4 第2回地域交流実施要項

1・2年 社会見学会合同発表会 H・13・10・30 6時間目

会場 1A教室

テーマ **想いが伝わるように話そう・傾けよう**

1 一学年発表
 司会.....
 ・インタビュー結果発表
 ・中学生に聞くこと聞いての感想等

2 二学年発表
 司会.....
 ・社会見学でうれしかったこと、おもしろかったこと、つらかったこと
 ・中学生に聞くこと聞いての感想等

3 校長先生から発表を聞いての感想

2年生は1番いい事が獲調されていきやすかった。

来年の社会見学会はもっといい社会見学会をやるように、協力して時間を守れるようにする。

資料5 合同発表会シート



資料6 第1回地域交流ハッピーハウス訪問

平成13年10月16日

あのカーペンター先生がやって来る

国際理解講話会

講師：私大文学部国際関係学専攻 国際交流委員 カーペンター・ピクター・ロー

日時：平成13年10月20日(土) 11時から12時まで

場所：駿ヶ岡中学校体育館 (テレビやラジオはもちろんだがNHKの録音でも大歓迎)

対象：全校生徒 保護者・幼稚園・小中学校保護者 校役場の方々 地域の方々などでも

内容
アメリカの今回の事件のこととても国際理解は難しいですが、これからは本当に大切にして、やっぱり楽しい

30年近い私科での生活を楽しませ、国際交流委員の活躍を日本でもお話しします。

資料7 講演チラシ

2年 国際理解学習 新聞べたをまとめたもの

雑 民

読んだことの内容

7月21日(土)の新聞の雑民の合計は2370万人、雑民は約96万人にもなった。

7月21日(土)の新聞の雑民の合計は2370万人、雑民は約96万人にもなった。

7月21日(土)の新聞の雑民の合計は2370万人、雑民は約96万人にもなった。

新聞(まとめた内容から自分の考え)

新聞(まとめた内容から自分の考え)

新聞(まとめた内容から自分の考え)

資料8 国際情勢調べ内容

2年国際理解学習 今、世界で起きていることと同じくして

1. 期日 11月16日(金) 1~2時間

2. 場所 2階スペース (生徒は椅子を移動し別席)

3. 内容 各グループごとの発表 (1時間) 自分達の作った掲示物を示して内容2分、感想2分)

1時限 ①テロリズムについて、
②アフガニスタンについて、
③ベトナム戦争について、
④湾岸戦争について、
⑤生物兵器について、
⑥陸奥国について、
⑦車爆弾について、
⑧アメリカ事情について、
⑨オサマビンラディンについて、
⑩フシユタダについて、
⑪雑民について、

2時限 話し合い 議題「米同時テロの紛争に、日本は自衛隊を派遣すべきである。」

役割... 司会・進行係 タイム係 審判係

肯定側 グループ1
グループ2
グループ3
グループ4

否定側 グループ1
グループ2
グループ3
グループ4

※自分の意見と違っても、自分で調べたことをもとに、それぞれの立場で意見を述べてください。
※発言内容は、最後どちらが正しい結果が発表してもらいます。
(引き分けはありません。)

評価シート

項目	評価
1. 国際交流の調べ学習に、興味をもって参加できた。	A B C D
2. 国際交流の調べ学習で、ポスターやまとめを発表できた。	A B C D
3. 報告会で相手の説明をきちんと聞いた。	A B C D
4. 報告会で自分の説明をきちんとできた。	A B C D
5. 今回の国際交流の調べ学習は、自分にとってプラスになった。	A B C D

<感想・疑問及び反省>
他の班の人もよく調べていて、発表を聞いてみると、生物兵器や核兵器はとてつもないものなんだなと思いました。グループの発表がみんな成功して良かったです。

2年A組 氏名

議題「米同時テロの紛争に、日本は自衛隊を派遣すべきである。」

名前	肯定側(すべき)	否定側(すべきではない)
1 田中	①石村グループの意見 テロにこそ、この人々に役に立っているから たこの人を救うために 必要だ。	②石村グループの意見 憲法にほんしているから反対 目的憲法には戦争に人かか いにあるから、 日本が戦争にうけることはないか
2 田中	①橋山グループの意見 取りかかっているから派遣すべき 日本がいつかいつかアメリカに協力した方がいい	②高橋グループの意見 同盟国だから、軍隊を派遣するに日本に何かかかっているから 軍隊を動かさなければならぬ 人をかかた方がいい
3 田中	③小中グループの意見 アメリカがここ、戦争を始めたから、攻撃した方がいい	④石村グループの意見 同盟国だから、軍隊を派遣するに日本に何かかかっているから 日本がいつかいつかアメリカに協力した方がいい
4 田中	⑤栗田グループの意見 うたげ組しているから、取りかかっているから、	⑥石村グループの意見

議題 話し合いの感想文 紙1枚 縦切り 中村まで

資料10 デイバート学習評価

資料9 デイバート学習次第

ねらい

・(英語が話せないから話さない)ではなくて、自分の持っている英語でも相手に伝えようとする意志があれば相手はきちんと答えてくれる、という喜びを体験させる。

1. 2時限目の討論会の勢いで、今度は実際のコミュニケーション活動を通して国際社会のなかで生きていくことを意識させる。

2. ねらい設定の理由
全編目エマ先生が学業に専念し食べにきたとき、2年生は英語が話せないという理由で話し掛けようとしても相手は聞き流されてしまっていた。その話し掛けに相手は聞き流されてしまっていた。それは、英語が話せないという理由ではなく、「相手に聞き流してもらおう」とか「時間、空間を共有しているんだ」という意識の欠如である。そのような2年生の現状を考えたとき、まだ、なにかを通して話そうとするというねらいは早いと判断される。まずは、誰かにならず話してあげることが必要であるという理由からねらいを設定した。

3. 期日
11月16日(金) 11時50分~14時30分

4. 同学生徒
参加するのは12名
(国語はアメリカ、ルーマニア、中国、ニュージーランド)

5. 当日の流れ

10:30	2年朝明美術開始	13:05	開所へ出発(個別行動) 幹事(6名)、2班(2名)
11:50	同学生徒(校長室へ)	14:05	現地解散(幹事部(4名)、2班(2名))
12:00	2年生と合流(調理室) 自己紹介など簡単なあいさつと食事	14:15	2年生挨拶付け(調理室)
12:35	開学レク(体育館) 風大百会中	14:40	閉校、学活(早退の席に促します)

2学年国際交流行事について

6. 当日までの学級の動き
・13日まで...朝の学活を利用して暖めとレクの内容を決める。
ちょうど12人が参加するがホームステイの裏でもいいのだが、話の目的もあるので両方が必要ではないか。

7. 当日までの職員室の動き
・14日まで...松里先生と相談して調理実習で何を作るかを決定する。
交換要2班で調理要1班として実習に臨みたい。
インタビュー内容を若干でも決めておいてスムーズに交流に入れるようにする

8. 当日の職員室の動き
・その日は、2時限目に国際交流の委員会が博文先生のご協力を得て行なわれる予定です。(場所はミーティングルーム)

校長先生...11:50ごろに校長室で留学生を迎え入れて説明をされる。
その後は2年生の動きと同じ

栗田先生...11:00に私大文学部留学生を迎えにいきます。
学校員は2年生の動きと同じ

古川先生...3. 4時限目の調理の時間に入っていくだけ。

電西先生...3. 4時限目の家庭科の授業をお願いします。

教子先生...保健室の状況にあわせて随時ご協力してもらう。

大橋先生...2年生の動きと同じ

9. その他
調理実習について (実習員は7万円ほどあるそうです。)
・第1調理...きりたんぽ鍋
・第2調理...海苔巻き、おでん

10. その後の動き
・できれば年内にもう一度交流事業をもちたいと考えています。

資料11 第1回交流会要項

キーワードは以下の通りである。

イスラム教・テロリズム・国際テロリスト・中東戦争・パレスチナとイスラエル
 日米安全保障条約・ベトナム戦争・アフガニスタン・ブッシュ大統領・湾岸戦争
 イランイラク戦争・国際連合とPKO活動・オサマビンラディン・世界の宗教
 生物兵器・憲法第9条・オーストラリアの軍隊・核兵器・難民・NGO活動
 アメリカ軍基地・世界の内戦・テロ事件への対応

また、図書資料が世界地図や社会科地理資料集程度のものしかなかったため、主にインターネットを利用し資料収集を行わせた。

調べ学習終了後、ディベート学習「私は自衛隊を海外に派遣することに賛成である」を行った。今回は初めての試みということもあったので、肯定派・否定派などのチーム分けやゲームの進め方など教師主導で取り組ませた。議論の展開も世界情勢調べで自分が取得した情報を使って行うこととした。実際の授業では予想以上に興味関心を示し議論も白熱したものになった。

【学習⑤ - 弘前大留学生との交流会 (表 11・資料 11)】

弘前大学国際交流センターから、留学生の方に来校していただき親睦を深めることができた。計2回の交流会を行い、各回とも約20人の方に参加していただいた。

第1回目は前述した「学習④のディベート学習」を1, 2時間目に設定し、同日の3時間目～6時間目で行った。したがって、第1回目のねらいは「討論会をふまえ、今度は実際のコミュニケーション活動を通して国際社会の中で生きていることを意識させること」として、とにかく片言の英語でも話そうという意識の喚起を図った。最初はとまどいもうかがえなかったが、昼食を一緒にとったり、ゲームをしているうちに、生徒の表情もいきいきと変わってきた。また、留学生の方の中には、本校生徒の素直さや純朴さに好感をもたれた方も多いようであった。

第2回目の交流会では、クリスマス前ということもあってケーキづくりを生徒たちが企画した。また、交流会へ勧誘するポスターを制作し、大学に掲示してもらうなど生徒自身による、意欲的な取り組みが前回よりもみられた。

VI 研究結果と考察

(1) 地域交流学習に関して

表 12 及び資料 16 は地域交流学習終了後に行ったアンケートの集計結果及び生徒の感想である。アンケートは1回目の学習終了時と2回目の学習終了時に計2回実施した。比較検討のため、質問は同じ内容とした。生徒の感想は、極力、逆の意味をもつと思われるものを抽出し、便宜上番号を付した。

表 12 地域交流アンケート自己評価分析結果 (対象22人, 上段1回目, 下段2回目)

評価項目	段階% () 内は人数			
	A よくできた	B できた	C あまりできなかった	D ぜんぜんできなかった
①地域交流の学習に積極的に参加できた	68 (15) 82 (18)	28 (6) 18 (4)	0(0) 0(0)	4(1) 0(0)
②集合時間など余裕を持って行動できた	86 (19) 90 (20)	14 (3) 10 (2)	0(0) 0(0)	0(0) 0(0)
③交流先で礼儀正しくできた	78 (17) 96 (21)	18(4) 4(1)	4(1) 0(0)	0(0) 0(0)
④交流先で自分の役割をきちんとできた	72 (16) 64 (14)	24(5) 36(8)	4(1) 0(0)	0(0) 0(0)
⑤今回の交流は、自分にとってプラスになった	68 (15) 72 (16)	28(6) 28(6)	0(0) 0(0)	4(1) 0(0)

【有意差の判定】

表 12 の 1 回目と 2 回目の項目別回答状況を χ^2 検定の 2 K 分割で検定した結果は次のようになる。

(自由度 = 3, 危険率 = 5 % 水準, 分布表の値 = 7.81476, 二つの割合は同質ではない。)

①は χ 自乗の値 = 7.48057971	有意差なし
②は χ 自乗の値 = 0.75757576	有意差なし
③は χ 自乗の値 = 14.7711599	有意差あり
④は χ 自乗の値 = 6.87058824	有意差なし
⑤は χ 自乗の値 = 4.11428571	有意差なし

【資料 16 地域交流・生徒感想】

第 1 回 ハッピーハウス訪問

- ・話がとぎれないように もっと話題を考えればよかったと思った。とても楽しかったゲームもしたし、話もしたから交流できたと思う。(感想 1・女)
- ・おばあちゃんたちと話があってすごくおもしろかったです。昔の碇ヶ関がちょっとわかりました。(感想 2・女)
- ・お年寄りの人にたくさんお話を聞くことができてためになった。もっとお年寄りと接してやさしくできるようにしたい。(感想 3・女)
- ・昔の生活がよくわかり楽しかった。今の生活と昔の生活の違いがよくわかった。ゲームなどもやって交流会はとてもおもしろかった。インタビューは成功だった。(感想 4・男)
- ・質問することがなくなってだまってしまったので次々と話を続けたかったです。(感想 5・男)
- ・質問があまり通じなかったので、今度こういうことがあったらちゃんと通じるようにしたい。(感想 6・男)

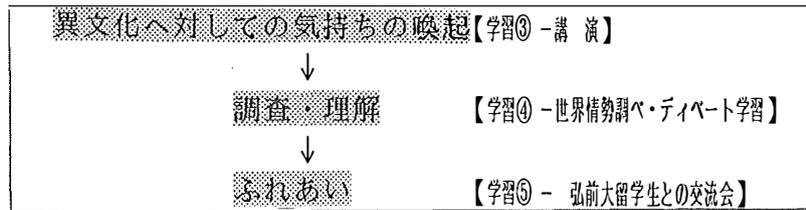
第 2 回 弘前市内散策及び取材・インタビュー活動

- ・最初手こずってしまったけど、ちゃんと目的地へ行くことができて楽しかったです。インタビューなどもきちんとできてよかったです。(感想 7・女)
- ・弘前はけっこう知っていると聞いたけど知らないところもいっぱいあった。だから、今回いろいろな所を見て歩いて前より少し弘前を知れたと思う。(感想 8・女)
- ・弘前の町中をたくさん歩いたり、走ったりしてとてもつかれました。でも、インタビューした人がやさしかったのでよかったです。(感想 9・男)
- ・弘前城でのインタビューはとても楽しかった。今回の社会見学はとても良い勉強になった。(感想 10・男)
- ・班の人たちと一緒に弘前を歩いてとても楽しかった。とても親切な人にもたくさんあってうれしかった。今度はもっと遠いところで社会見学をしたい。(感想 11・女)
- ・目的のものが見つからなくて大変だった。インタビューを 2 回断られてしまった。(感想 12・男)

【考察】

表 12 のアンケートからは、2 回とも良い評価結果が得られている。評価項目④を除いては 2 回目の方が良い上昇傾向の結果となった。特に評価項目③は知らない人にインタビューするという心理的な緊張感もあり、よい方向に有意差がありとの判定となったものと思われる。また、生徒の感想は、1 回目は高齢者の方との接し方に係わるもの、2 回目全く知らない第三者にインタビューしてみたものが多かった。(感想 5) と (感想 10) は同一生徒の感想である。1 回目と 2 回目の対象は違うものの、インタビューすることに対しての変容がわかる感想である。

(2) 国際交流学习に関して
海外派遣は延期となったが、結果的に、



という学習の流れで学習を進めることができた。ここでは、特に国際交流に意識した単元である学習④と学習⑤の考察を述べたい。

【学習④ - 世界情勢調べ・ディベート学習】

表 13 及び資料 17・18 は学習終了後に行ったアンケートの集計結果及び生徒の感想である。生徒の感想の抽出は(1)と同様な観点で行った。

表 13 学習④ 世界情勢調べ・ディベート自己評価分析結果

評価項目	段階%・()は人数			
	A よくできた	B できた	C あまりできなかった	D ぜんぜんできなかった
① 国際交流の調べ学習に積極的に参加できた	64 (23)	33 (12)	3 (1)	0 (0)
② 国際交流の調べ学習で、ポスターやまとめを完成させることができた	66 (24)	28 (10)	3 (1)	3 (1)
③ 報告会で相手の説明をきちんと聞いた	55 (20)	39 (14)	6 (2)	0 (0)
④ 報告会で自分の説明をきちんとできた	47 (17)	42 (15)	11 (4)	0 (0)
⑤ 今回の国際交流の調べ学習は、自分にとってプラスになった	55 (20)	42 (15)	0 (0)	3 (1)

(対象 36 人)

【資料 17 世界情勢調べ・生徒感想】

- ・テロリズムというところを調べていたら「弱者の強者に対する戦争」と書かれていて「逆いじめじゃん」と思った。テロリストがテロを起こしたときの心境が気になった。気持ちよかったのか、それともいやだったのか、どうかなあと思った。このことから、テロをおこすような狂った大人にはなりたくないと思った。
(感想 13・男)
- ・ぼくは、ラディンがやっていることもアメリカ人が言っていることも、結局は相手を批判しているだけだと思った。このままでは何の解決にもならないと思う。
(感想 14・男)
- ・どうしてビンディンがテロ事件を起こしたのかわからないけれど、どんな理由があつたとしても、あんなに多くの人を悲しませたのだから必ず罪を受けるべきだ。でもテロ組織アルカイダがアフガンにあつたとしても、アフガンの人々は何も悪くないのだからアフガンを攻撃するのはおかしい。だからもっと人々を傷つけないやり方を考えて欲しい。～中略～最初はアフガンについて何もわからなかったけどくわしくわかっていくうちにどうしてオーストラリアへ行けなくなったというよりも、今世界がどうなっているかということを知ることができた。
(感想 15・男)
- ・ベトナム戦争は調べるまでは全然知らなかったけど、調べてみてすごい戦争だったんだなあと思った。枯れ葉剤の被害で全く関係のない人が死んだのはすごく悲しいことだと思った。自分は体験してないけど、被害を受けた人は悲しいとかかわいそうだけでは表せないと思う。
(感想 16・女)
- ・私は国際理解学習で難民のことを調べて良かったと思います。私は、難民のことを調べる前までは数えるくらいしか人数がいなくて、難民のことを全然知りませんでした。アフガニスタンでは、テロ事件がある前でも難民の数が2000万人を越えていること。撤去されずに地雷が残っていること。子供たちは栄養不足でさらに教育を全く受けていないこと。一部の地域では人を殺し、殺すことが珍しくないことなどです。この課題を調べていなかったら、世界で起こっている悲しい事件はずっと知らないままだったと思います。
(感想 17・女)
- ・難民にもいろいろな人たちがいて、災難や戦争や政治の圧迫をさけるために国外に

逃げた人たちが、自分（難民）たちが悪いと思う。難民の人たちは逃げたりしないで自分の意志を少しでもわかってもらうためにがんばってほしいです。そしたら自分を変えていけると思います。（感想 18・女）

・僕には、この戦争を止めることができないので、どうすることもできないのでおさまるまで待っていないといけないのです。（感想 19・男）

【資料 18 ディベート学習・生徒感想】

・司会をやっていたので発表できなかったのが残念だった。でもいろいろな意見がや発表があつてよかったと思う。みんなもっと自分の思っていることなどを言えば楽しくなると思う。（感想 20・男）

・ディベートは予想であった。こうやって言えるんだからこれからは、学活の時沈黙をしないでほしいと思った。（感想 21・男）

・僕は肯定側になった。否定側の意見は憲法違反でおしたので結果負けてしまいました。否定側には説得力があった。次ディベートがあつたらがんばりたいです。（感想 22・男）

・2年生みんなで自衛隊を派遣すべきかどうか話し合いました。みんなでこんなふうに話し合ったのははじめてでした。私は否定側でした。自衛隊を派遣すると日本が攻撃をうけるから派遣しない方がいいと思いました。でも、肯定側の人たちは人々を救うために必要だといいました。たくさん意見がでてきてとてもよい話し合いになりました。また、こういう時間があつたらやりたいです。（感想 23・女）

【考察】

表 13 のアンケート結果では、全ての項目で良好な結果を示し、総じて満足感も高いものと判断される。資料 17 の世界情勢調べ・生徒感想からも、様々な感想・意見があげられている。中には、単なる世界情勢を理解ばかりではなく戦争の悲劇は、大国の利害関係から発生していることに気付き、世界の動向に矛盾を感じはじめの考えをもつ生徒も複数いた。さらには、調査活動を通して、自分の意見や立場を形成していく生徒もいた。

また、資料 18 のディベート学習・生徒感想から「またやりたい」などディベートに対する肯定的な感想が多かった。ディベート学習に対して意欲的な感想が多かったことは、きちんとした議論に心地よさを感じた生徒が多いということである。うらをかえせばそれだけ、生徒個々にとって、腑に落ちない適当な議論が日常的に横行しているということであろう。さらに、「自分の意見を述べさせる場」を設定することによって、相手の話をよく聞いて、話すという訓練もできた。積極的に話せたり、きちんと聞けるという行為は、まさに異文化の理解に直接的に係わってくる。以上のように調査に基づいた話し合い活動は非常に多くの教育的価値を含み、今後も継続して指導していきたい学習となった。

【学習⑤ - 弘前大留学生との交流会】

交流会の1回目と2回目終了後にアンケート調査を行った。結果は次の表 14 及び資料 19 の通りである。アンケートの実施方法及び生徒の感想の抽出は（1）と同様な観点で行った。

表 14 国際交流アンケート自己評価分析結果

評価項目	段階%・()内は人数			
	A よくできた	B できた	C あまりできなかった	D ぜんぜんできなかった
①国際交流の学習に積極的に参加できた	68(23)	32(11)	0(0)	0(0)
	60(21)	38(13)	2(1)	0(0)
②交流先で礼儀正しくできた	59(20)	32(11)	9(3)	0(0)
	66(23)	29(10)	5(2)	0(0)
③交流で自分の役割をきちんとできた	68(23)	32(11)	0(0)	0(0)
	72(25)	26(9)	0(0)	2(1)
④今回の交流は、自分にとってプラスになった	74(25)	26(9)	0(0)	0(0)
	74(26)	26(9)	0(0)	0(0)

(上段 1 回目 11/16 対象 34 人, 下段 2 回目 12/18 対象 35 人)



資料 12 地域交流・弘前城インタビュー及びTP資料

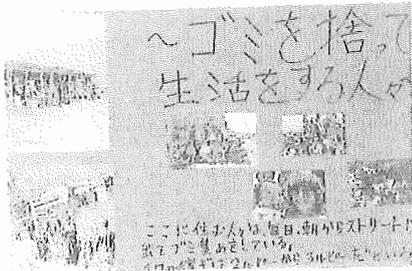
2班 県外

質問 お土産は何を買いたいですか？

	5	10	15	20	25分
りんご					
お米	2人				
海産物	2人				
その他					

県外の人に お土産は何を買いたい
ですかという質問に対して、果物味
あとかきりんごが一番でした。
ほかにかきりんごのほかに、りんごの加工品でした。
この結果から、青森の特産物が多いとい
うことがわかりました。

感想 津軽栗は、県外では、有名な
場所であることがあらためてわかりました。



資料 13 デイバート学習資料



資料 14 国際情勢調べ発表



資料 15 第1回交流会・関所にて

【有意差の判定】

表 14 の 1 回目と 2 回目の項目別回答状況を χ^2 検定の 2 K 分割で検定した結果は次のようになる。

(自由度 = 3, 危険率 = 5 % 水準, 分布表の値 = 7.81476, 二つの割合は同質ではない。)

①は χ 自乗の値 = 3.01428571	有意差なし
②は χ 自乗の値 = 1.68239813	有意差なし
③は χ 自乗の値 = 2.73497537	有意差なし
④は χ 自乗の値 = 0	有意差なし

【資料 19 交流会・生徒感想】

(1 回目)

・最初は英語も苦手だったし、あまり話すことができないと思っていたが、留学生の人たちはたくさん話しかけてきてくれてうれしかったし、わからない所は同じ班の人が助けてくれて良かったです。(感想 24・女)

・自分の英語がまだ未熟だとわかった。知らない単語も教わった。おもしろかった。香水のにおいがきつかった。(感想 25・男)

・あまり話すことができなかった。関所にいったとき紹介できなかった。(感想 26・男)

・英語で話しかけられた時何がなんだかわからなくて訳のわからない英語で答えてしまった。いざとなると全然話すことができなかった。(感想 27・女)

・先生が英語で話せといたけどあまり話せなかった。(感想 28・男)

・外国の人が来るというから話が通じるかとても不安でした。留学生の方は日本語が話せたのでいろいろな話ことができました。でも、オーストラリアに行くとなると日本語を話せる人はいないと思うので、海外派遣が延期になった分の日数でもっと英語を話せるようにがんばりたいです。(感想 29・女)

(2 回目)

・前回より留学生と話げできた。今日はかなり楽しめた。バレーは少し盛り上がらなかった。次回は全員が盛り上がる企画を考えていきたい。(感想 30・男)

・また、ジョンレノンに会えた。ビンゴもプレゼント交換はおもしろかった。国際交流はとても ENJOY PLAY。(感想 31・男)

・とても楽しかった。ビンゴをみなさんに楽しんでもらうことができうれしかった。もっと英語ではなせればなあと思った。ドーナツを good と言ってもらってうれしかった。(感想 32・女)

・今回の国際交流は自分にとってプラスになりました。それはいろんな人と話せたし楽しかったからです。留学生の人たちが楽しそうにケーキの飾り付けやバレーをやっているのを見てもうれしくなりました。(感想 33・女)

・こういう交流をしていると文化の違いがわかってすごく勉強になると思う。(感想 34・男)

・留学生のひとたちとあまり話すことができませんでした。ケーキづくりやバレーは楽しかったんだけど。(感想 35・女)

・留学生の人とそんなに話すことができなくてだんどうりが悪くなってしまった。次は積極的に取り組みたい。(感想 36・女)

・話せなかったので英語をできるだけ覚えて話せるようにしたいです。(感想 37・男)

【考察】

表 14 のアンケート結果から、全ての評価項目で有意差なしと、2 回とも同傾向を示す結果となった。2 回とも高い満足感が得られたものと思われる。さらに、全員の生徒感想の内容を分析すると、留学生との交流会に対して「意欲的・積極的・楽しい」など肯定的な意見を示した者が 1 回目 34 人中 15 人で 44 % であったのに対し、2 回目は 35 人中 29 人で 82 % と増加している。その要因として交流会に慣れたことも考えられるが、1 回目と比較し 2 回目の交流会では、資料 19 生徒 30 から生徒 34 の意見に代表されるように、

英語を上手に話せなくても意志疎通が可能であることを体感した生徒が増えたからとも推測される。すなわち、英会話の問題よりも留学生の方と「楽しみたい」とか「もてなしてあげたい」という気持ちが強く先行したということである。そしてこの気持ちの変容が異文化理解の前提条件になるであろう。この結果を考察しても、回を重ねた意義は大きい。

以上の考察から、代替案としての計画ではあったものの、「国際交流を通して異文化にふれ、自己の生き方について自覚を深める」というこの単元のねらいは充分達成されたのではないだろうか。

Ⅶ まとめ

今年度の実践研究から、小規模校における指導のあり方について取りくんだ交流学习について感じたことを述べてみたい。

1 交流活動の意義

交流することの最大の意義は、地域にせよ、国際交流にせよ、多様な人間性の価値観に直にふれることであろうと私は考えている。そして、やさしさや思いやりといった心を媒介として、自分もまた、だれかのための貴重な価値となって存在しうることが交流活動の魅力でもある。

例えば、高齢者との交流の意義について、文部省報告書「高齢者との連携を進める学校施設の整備について」では次のように紹介している。「児童生徒は、これらの交流を行うことにより、高齢者を思いやる気持ちやいたわる気持ちとともに、高齢者への感謝や尊敬の気持ちを育むことができる。また、豊かな経験、知識、技能を有する高齢者から様々な生きた知識や人間の生き方を学ぶことは貴重な体験であり、特に、地域における伝統行事などの伝承は地域文化の継承としても大切である。他方、これら児童生徒と高齢者の交流は、児童生徒にとって教育上の効果があるばかりでなく、高齢者にとっても、ふれあいや教えることにより、心の充足や生きがいを得ることができ、日々の生活に活力をもたらす重要な機会となっていることが報告されている。」

以上の内容からも交流活動の目的は、多様な価値とのふれあいを通して、自己の生き方を見つめ直し、社会で、社会と共生することと考えることができる。

今年の取り組みでは、Ⅵで詳述したとおり、情意面での効果は予想以上のものがあり、普段の学校生活においても、積極的になってきた生徒や物事の実行に対して自信をつけてきた生徒などが増え、個人レベルでの変容が感じられる。本校のように集団が小さく、また最近の個人主義的な風潮もあって、固まった人間関係しか築きにくい個人に対しては、多様な、そして国際的な価値観との出会いは視野の拡大につながったものと思われる。

2 交流活動からを交流学习へ

施設を訪問したり、パーティーでのふれあいはあくまでも、交流という活動である。今年の計画時点であったイメージも交流の活動に重点を置いたものであった。しかし、国際交流学习の実践の途中から「活動」と「学習」の相違を意識するようになった。このことに関して若干ふれたい。

この「活動」と「学習」の意味するところが、新学習指導要領に次のように示されている。

第1章特別活動、第3指導計画の作成と内容の取扱い－2－(3)では「学校行事については、学校や地域及び生徒の実態に応じて、各種類ごとに、行事及びその内容を重点化するとともに、行事間の関連や統合を図るなど精選して実施すること。また、実施に当た

っては、幼児、高齢者、障害のある人々などとの触れ合い、自然体験や社会体験などを充実するよう工夫すること。」と示されている。このことは、地域との連携を深め地域の情報発信の基地として開かれた学校をつくるという機能的役割と交流活動などを通して、地域ぐるみの教育が重要となるという教育的役割ありを意味する。

一方、総則、第4総合的な学習の時間の取扱い－5－（1）では配慮事項として

「(1) 自然体験やボランティア活動などの社会体験、観察・実験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れること。

(2) グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制、地域の教材や学習環境の積極的な活用などについて工夫すること。」

と示されている。

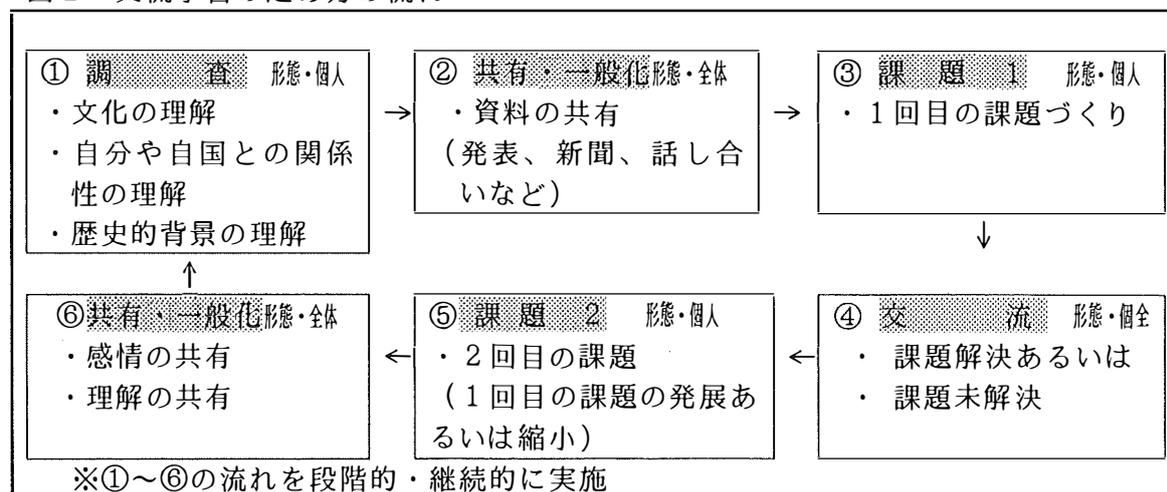
以上のことから、特別活動では、充実した内容の体験をさせることに重点が置かれている。総合的な学習の時間では、それまでの経験などから体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に展開していくこととされ、あくまでも重点は学習にある。さらに、特別活動での対象は集団の醸成であるのに対して、総合学習では個人での問題解決に努力するといったあくまでも個による学習といった側面もみえてくる。

したがって交流という活動を学習として取り扱うためには、交流することをねらいとするのではなく、例えば、

- ① 交流活動を通して課題が解決していく
- ② 交流活動を終えてから課題をもてる

などの課題とのつながりをもたせることによって「交流学習」として成立しうるのではないだろうか。換言すれば交流自体は、学習の流れの中の一場面でしかないわけである。最後に今年国際交流学習の実践から図2に交流学習の進め方の展開例案を示して、章を閉じたい。

図2 交流学習の進め方の流れ



VIII 成果と改善点

- 【成果】 ① 交流学習の実践報告
 ② 交流学習のねらい・流れの提示

- 【改善点】 ① 交流学習全体の時間と内容の見直し

IX 最後に

ここ三年、勤務校において実践研究を重ねてきた総合的な学習の時間がいよいよ今年度4月からスタートされる。昨年度までの二年間では、課題設定学習について、そして今年度は交流学习と系統的に実践及び報告ができてほっとしている。今年もやはり、総合的な学習の時間の授業は、準備も大変であったし、実践にあたって新しい試みが多かった。

「生きる力」とは、課題追究であったり、生き方の模索であったり、多様なねらいはあるが、生徒一人一人のアンテナにすべてのゆさぶりが効果的であるとは思ってはいない。佐賀大学の新富康央氏が最近の生徒の風潮を「無気力化、集団埋没型、学級では集団は衆団、個は孤になりがち」と指摘しているが、勤務校でもそんな兆候を感じる場面が多い。だからこそ、今年度の交流学习の研究は意味があるものに思われる。

課題設定学習の基盤づくりの学習がきっかけとなった交流学习であるので、今後は課題の内容の変化に期待しながら、交流学习の内容の充実を図っていきたい。

最後になりましたが、勤務校である碓ヶ関中学校の先生方や教育実践総合センターの先生方にはたくさんの助言やご協力をいただき、本研究を無事終えることに対し、紙面をかりて感謝の意を表します。

X 参考・引用文献

- [1]文部省 平成10年12月14日 中学校学習指導要領
- [2]加藤幸次 染田屋謙相編 2000 新学習指導要領の実践をめぐる問題事例
学陽書房 102 - 105
- [3]平成11年11月1日 総合教育技術 11月号付録 新学習指導要領基礎・基本ここが
ポイント 54 - 57 小学館
- [4]2002年2月1日 社会科教育 2月号 異文化学習 明治図書
- [5]文部省 平成12年1月27日 特色ある教育活動展開のための実践事例集
(中学校・高校編)
- [6]吹貝賢一 1994 教育と表計算 弘前大学教育学部附属教育実践研究指導センター
- [7]中村博文 1999 弘前大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究員報告書8
- [8]中村博文 2000 弘前大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究員報告書9
- [9]碓ヶ関村立碓ヶ関中学校 平成12年度 校内研修のまとめ
- [10]文部省大臣官房文教施設部指導課 平成11年6月
概要 高齢者との連携を進める学校施設の整備についてー世代を越えたコミュニテ
ィーの拠点づくりを目指してー
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/004/gaiyou/990701f.htm